

第1学年 生活科 学習指導案

1 単元名 はなや やさいと なかよし ～おおきく なあれ～

2 単元について

本単元は、主に生活科の内容（7）と関わるものである。

（7）動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

＜児童の思いと教師の願い＞

本学級の児童は、幼稚園や保育園で植物を育てた経験のある児童がほとんどである。しかし、半数の児童は花壇や長いプランターで先生が育ててくれたものを観察したり、水やりをしたりしたと答えており、一人一鉢栽培を経験している児童がほとんどいなかった。児童の様子を見ると、学校の観察池を覗いておたまじゃくしを見ていたり、校内の水槽の金魚を眺めていたり生き物に関心の高い児童も多い。また、学校の通学路で見付けた草花に興味をもち、公園探検の際にも「この花なんだろう。」と図鑑で調べたり分かったことを友達に伝えたりしようとする姿が見られる。しかし、この時期の児童は、興味や意欲を継続して活動することは難しい。児童の思いや考えも教師が気付いて広げられないと興味、関心が深まっていけない傾向がある。

このような児童の実態から、自分が育てているアサガオへの関心、栽培意欲をもち続けて世話ができるようにしていきたい。その中で、自分のアサガオの日々の成長に気付いてほしいと考える。また、気付いたことや分かったことを友達と伝え合う活動を通して、自分では今まで気付かなかったことや意識していなかったことに目を向けアサガオが成長していく喜びや、発見する喜びを味わえるようにしたい。

児童はアサガオの「お父さん、お母さん」として種まきの段階から大切に世話をしている。児童が「お父さん、お母さん」としての思いをもち続けて、世話を継続していけるように児童の思いや願いに寄り添いながら、観察カードや観察ツールを段階的に用意していく。また、夏休み中も児童が思いや願いをもち続けてアサガオの世話をしていけるよう、家庭の協力を仰いで声かけをしてもらう。そうすることで、愛着をもって世話を続けるとともに、最後まで大切に育てた自分自身の成長に気付かせていきたい。

3 単元の目標

植物の栽培をする活動を通して、植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、植物は生命をもっていることや成長していることに気付き、親しみをもち植物を大切にすることができるようにする。

4 単元の評価規準

＜内容のまとめ＞（7）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
植物の栽培活動を通して、植物の変化や成長の様子、上手な	植物の栽培活動を通して、植物の特徴、変化や成長の様子に	植物の栽培活動を通して、育てている植物に親しみや愛着を

世話の仕方について気付いている。	着目して、観察したり、世話したりして育てている植物への関わり方を自分なりの方法で表現している。	もったり、自分の関りが増したことに自信をもったりしたことを実感し、生命あるものとして繰り返し関わろうとしている。
------------------	---	--

5 研究の視点（生活科部会研究計画より）

視点1 自校の実態を見直し、低学年の児童の身近な「ひと もの こと」と体全体で関わる具体的な体験や活動を通す単元開発を積極的に行う。
--

○観察カードの工夫

この時期の児童は、文字の学習の導入段階であるため、語彙も少なく文字を使って文を書くことが難しい。発達段階を考え、書くことが負担にならないようにしたいと考えた。

そこで、次の3種類のカード

①アサガオへの手紙 ②アサガオと自分の気持ち ③気付いたことを書く

をA5サイズで用意することで、児童が観察カードを書くことへの抵抗をなくし、継続して観察・記録を行うことができると考える。観察したカードを重ねて貼っていき、振り返ることでアサガオの成長を実感することができるだろう。また、思いや考えがなかなか文に表せない児童には、アサガオの観察の絵から読み取れたことを言葉や朱書きによって教師が価値付け返すことで、気付きの視点につなげていきたい。

○アサガオの成長の様子が分かる掲示物の工夫

アサガオの成長の様子を振り返るためには、一時的な観察や記録だけでなく成長の過程が視覚的に捉えられる記録が大切だと考えた。そこで、アサガオの成長の様子を横並びで廊下に掲示し、観察の際に振り返る場を設けることで「はじめはこんなに小さかったね。」「いまは、ぼくの背と同じくらいになったよ。」などと、自分とアサガオを比べたり、今後の成長を楽しみにしたりする児童の姿を期待したい。

また、教室には、児童の活動の様子とアサガオの成長の様子を関連付けて写真で表し、児童の言葉も合わせて掲示することで、アサガオの成長に寄り添い、大切に育ててきたことを再認識できるようにしていきたい。

○学びを豊かにするための異学年交流

身近な2年生であるが、教室の階も違い、なかなか関わりが持てないのが現状である。2年生は1年生の時に育てたアサガオの種を新1年生にプレゼントしている。1年生に来年の自分たちの姿をイメージさせるにはもってこいの存在である。そこで、種まきの仕方を2年生に教えてもらい、アサガオ博士として2年生との交流を増やしていく。交流を重ねていくことで、どんな2年生になりたいかイメージを持ちやすくなると思う。また、2年生は1年生の手本としてどのように教えてあげればよいのか考え互いに成長する機会を設定し、育てていきたい。

視点2 児童が「やってみたい」「できるようになりたい」という自分の思いや願いをもち、対象と進んで関わる指導計画を工夫する。

○アサガオへの親しみが増すようにするための工夫

児童が主体的に世話を続けるには、命あるアサガオを大切に育てたいという思いや活動への意欲の高まり、継続的な活動が必要である。毎日世話を続けていると、大きな変化がない時期が出てくる。そこで、「私のアサガオ」といった意識を持たせるため、アサガオのたねをアサガオの赤ちゃんとし、世話をする児童をアサガオのお父さん・お母さんとして活動を始めた。さらに、間引き後にアサガオに名前を付けることで、自分のアサガオにより愛着をもって関わることができ、意欲の継続を図ることができる。と考える。

さらに、朝の会でアサガオのことを紹介するスピーチ（アサガオほめほめタイム）を設定することで、日常的にアサガオの様子を感じる活動を行っていく。一人の気づきや予想を学級全体に広げること、観察や世話の意欲がもてるようにしていく。自分のアサガオの成長だけでなく、育てている自分自身の成長にも気付けるように促していきたい。

6 本単元の位置づけ

月	単元名	学習活動	() 内容	○時数	☆本単元
4	スタートカリキュラム みんななかよし⑭ (1) (4) ○活動を通して学校のことを知り、安心感をもつとともに、小学生になったことを実感する。 ○新しい友達や先生、上級生と関わって遊び、学校生活に親しみをもつ。				
5	6	がっこうにくるみち かえるみち⑥ (4) (5) ○通学路の様子に関心をもって安全に気を付けて登下校する。 ○公園でルールを守って友達と楽しく遊ぶ			はなや やさいと なかよし⑰ (7) ☆本単元 ○アサガオなどの栽培活動に取り組む。 ○アサガオなどの成長の様子を観察する。
7		なつとなかよし⑥ (5) (6) ○身の回りの花や葉を使った遊びを楽しむ。 ○シャボン玉遊び、砂遊び、水遊びなどの夏の遊びを工夫して楽しむ。			
8					
9		いきものとなかよし⑦ (5) (7) ○動物公園の出張授業を利用し、いきものと触れ合う。			
10	11	あきとなかよし②② (5) (6) ○校庭や公園で秋を探す。 ○秋の虫に親しむ。 ○秋のものを使った遊びを考え、楽しく遊ぶ。 ○見つけた楽しさを家族や地域の園児たちに伝える。			○春に花が咲く植物の栽培活動に取り組む。 ○春に花が咲く植物の成長の様子を観察する。
11					

1 2	ふゆとなかよし⑱（５）（６） ○校庭や公園で冬を探す。 ○新年を迎える準備をする。 ○霜、氷、風など、楽しく遊ぶ。	もうすぐ２年生⑩ （５）（９）（８） ○お世話になった６年生に感謝の気持ちを伝える。 ○新１年生のために自分たちができることを考える。 ○新１年生を迎える準備をする。
1		
2		
3		

7 単元構想

<児童の思いや願い>

はなや やさいを そだてよう

2年生からもらったアサガオを育てたいな。	葉っぱの形がかわったね。	きれいな花を咲かせてほしいな。	咲いたアサガオをとっておきたいな。
----------------------	--------------	-----------------	-------------------

主な学習内容と活動	他教科との関連
なにを そだてようかな ○自分が育ててみたい植物を考えよう。 ・今までの栽培経験を振り返り、その時の経験について話し合う。 ・2年生からプレゼントしてもらったアサガオのたねをきっかけに、これからのように育てていこうか見通しを持つ。 ・アサガオ以外にも自分たちが育てられる植物はないか、話し合う。 《期待する姿》 「ヒマワリを育てたら、おおきくなったよ。」 「2年生からプレゼントしてもらったアサガオを育ててみたいな。」 「枝豆を育てたことがあるから、学校でも育てたいな。」 《手立て》 ・今までの栽培経験からどんなものを栽培し、育てた後何をしたら振り返り、2年生からプレゼントしてもらったアサガオを育てたいと意欲を高める。 はやく めを だしてね ○アサガオの育て方を2年生に教えてもらおう ・アサガオの気持ちになって、育てる方法を考える。 ・アサガオの種（赤ちゃん）をよく見て観察する。	<国語> 「わけを はなそう」経験したことについて話型を使って気持ちとわけを話す。 「おおきく なった」観察したことを記録する文を書く。 <算数> 「いろいろな かたち」形の特徴を捉える。 「かずしらべ」ものの個数の整理をし、絵や図で表現する。 <道徳> 「うまれたての いのち」すべての生命あるものは大切だと理解する。

・2年生に教えてもらって、アサガオの種まきを行う。 《期待する姿》 「ふかふかな土にやさしく入れてあげたいな。」 「赤ちゃんは小指の爪よりも小さくてかわいいね。」 「2年生に教えてもらってできたから、これからアサガオが大きくなるのが楽しみだな。」 《手立て》 ・アサガオの種を「赤ちゃん」とし、育てていく自分たちをアサガオの「お父さん、お母さん」と設定し、愛着が持てるようにする。 ・2年生と交流を続けることで、頼れる身近な存在がいることに気付けるようにする。 おおきく なってね ○アサガオの世話をし、気付いたことをみんなに伝えよう ・毎日の世話から、育てているアサガオの小さな変化に気付かせ、発表しあう。 ・どんな世話が必要か考え、世話をする。 ○花の様子を見てみよう ・世話をし、見つけたことを発表する。 ・アサガオについて教えてくれた2年生に、花が咲いたことを報告する手紙を書く。 《期待する姿》 「アサガオがなんだか、くるくる伸びてきたよ。」 「葉っぱがたくさんでできたけど、なんだか元気がないみたい。肥料をあげたほうがいいのかも。」 「つぼみができていて、ピンクだったからピンクのアサガオが咲くのかな。」 「きれいに花が咲いたことを2年生に伝えたいな。」 《手立て》 ・今までの観察カードを振り返ったり、友達の発表を聞いたりして自分のアサガオも同じところがないか見るように促す。 ・アサガオの声を聞き、どのような世話が必要か話し合う場を設ける。 ・今までしっかり世話をしてきたことにより、きれいな花が咲いたことに気付かせるとともに、これからはしっかり世話をしようとする気持ちを喚起する。 たねが とれたよ ○種とりをして、新しい1年生にプレゼントしよう	＜音楽＞ 「うたって おどって なかよく なろう」 ひらいた ひらいた ＜図工＞ 「かきたいもの なあに」 好きな形や色を使い、表し方を工夫して表すことを楽しむ。 「みてみて あのね」 いろいろな形や色などを捉えながら表し方を工夫して楽しく絵に表す。
--	---

・アサガオの様子について気付いたことを話し合う。 ・種とりをして、新1年生に喜んでもらえるようにたねのプレゼントの準備をする。 《期待する姿》 「実の中に種ができたよ。とりたいな。」 「1年生に種をプレゼントして喜んでくれるといいな。」 《手立て》 ・1つの実からたくさんの種がとれることなど、気づきを共有しながら次の活動につなげる。 ・自分たちが種をもらった時のことを思い出して準備できるように促す。	
---	--

8 単元の流れと評価（全12時間）

小単元名	◎学習内容（時数）	・評価の視点	○手立て
なにを そだてようかな	◎植物を育てたり観察したりした経験を振り返る（1） ◎アサガオの種の観察（1）	・思いや願いをもって、育ててみたい植物を選んでいる。 【思・判・表】	○2年生からもらったアサガオの種をきっかけに、これからの学習の見通しが持てるようにする。 ○アサガオのお父さん、お母さんになることを知らせ、種（赤ちゃん）をよく見て観察できるように促す。
はやく めをだしてね	◎種まき（2）	・アサガオの種のまき方や時期、世話の仕方が違うことに気付いている。【知・技】	○土の入れ方、種のまき方、水やりの方法を具体的に確認し、理解を図る。 ○アサガオ博士の2年生に教えてもらいながら、丁寧に種まきができる場を設定する。
おおきくなつてね	◎アサガオの水やり、観察（2＋常時活動）（本時）	・アサガオの成長に合った世話の仕方を考えている。【思・判・表】 ・アサガオの変化や成長の様子に着目して、観	○毎朝、自分のアサガオの健康観察をすることで水やりや声かけが進んでできるように促す。 ○成長や変化について、「葉の大きさ」や「つる

たねがとれたよ	◎5種類の種を観察する（1） ◎5種類の植物の水やり、観察（常時活動） ◎アサガオの間引き（2） ◎自分のアサガオ発表会（1） ◎種をとり観察する（2）	察している。 【思・判・表】 ・植物の成長に合った世話の仕方を考えている。【思・判・表】	の様子」など観察できるように、観察の視点が持てるように助言する。 ○マリーゴールド、枝豆（大豆）、フウセンカズラ、オシロイバナ、ヒマワリ、アサガオの種の特徴に気付けるように提示の仕方を工夫する。 ○アサガオだけでなく学年花壇の様子を見ることがも忘れないように、声をかける。 ○アサガオ博士の2年生に間引きについて教えてもらい、一人一人が丁寧に間引きを行えるようにする。 ○間引きして残した2つに名前を付け、自分のアサガオにより愛着がもてるようにする。 ○これまでの観察カードを振り返りながら、世話を続けてくることができた自分の成長に気付けるようにする。 ○大切に育ててきたアサガオの種をとり、よく見て観察できる時間を確保する。 ○とった種を来年の1年生にプレゼントしたいという児童の願いを全体に広め、今後の活動への意欲付けを図る。
---	---	---	---

9 本時の学習

(1) 本時の目標 (5 / 12)

○自分のアサガオを観察し、成長の変化を見付けることができる。

(2) 本時の展開

時 配	学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (☆)
3 分	1 今までのアサガオの栽培を振り返る。 ・アサガオの赤ちゃん (たね) は、小指の爪よりも小さかったよ。 ・最初は、とても小さくてちょうちょみたいな葉っぱだったよ。	○今まで育ててきたアサガオの成長を振り返ることができるように、成長の記録の掲示物や、今までかいてきたカードを見ながら過程を追っていくようにする。
2 分	2 本時のめあてを確認する。 じぶんの あさがおさんの ほめたいところを みつけよう	
20 分	3 自分のアサガオをじっくり観察し、褒めたいところを見付ける。 ・この間よりもつるが伸びて、くるくる巻いているよ。 ・葉っぱがどんどん大きくなっていてうれしい。新しい葉っぱも出てきたよ。 ・毎日お世話してくれてうれしいって言っていたよ。	○観察カードを見直ししながら、新しい発見、変わらないよさを見付けられるように、観察の視点を確認する。 ○紙コップスコープを紹介し、アサガオをよく見たり、アサガオの声をよく聞いたりできるように使ってもよいことを伝える。 ○褒めたいところを、忘れないように「ほめほめカード」に簡単な言葉で書く。 ○児童が友達のアサガオを見る様子があったら、友達のアサガオを見てもよいことを伝える。 ☆アサガオの変化や成長の様子に着目して、観察している。 (思考・判断・表現)
17 分	4 自分のアサガオの褒めたいところを発表する。 自由に交流→全体で ・わたしのアサガオは、いろいろな形の葉っぱがあつてすごい	○自分のアサガオのことを話すときは、友達に自分のアサガオを見せながら話すようにする。

3 分	よ。 ・ハートの形の葉っぱがたくさんあってかわいいよ。 ・ぼくのアサガオは、触ってみるとふわふわなひげが生えていて、おじいさんみたいな葉っぱがあるんだよ。 ・つるが伸びてきて背がすごく高くなったよ。 ・最初は小さかったのに、こんなに大きくなったのはお世話を続けてきたからだね。 5 活動を振り返り、次時への見通しを持つ。	○話が一方通行にならないように、褒めたいところを聞いた後は、一言コメントをしてから自分のアサガオの褒めたいところを伝える。 ○ギガタブでアサガオを撮り、テレビに映しながら全体で共有する。 ○テレビに映し出された、友達のアサガオと自分のアサガオを比較し、同じところや似ているところを見つける。 ○今までのアサガオの成長を振り返り、花を咲かせたいという気持ちを高めるようにする。 ○これからも大切に世話をする気持ちを育てるようにする。
--------	---	--

1 0 板書計画

じぶんの あさがおの ほめたいところを みつけよう		ほめほめたいむ
○ かたち ・はっぱ…ちょうちょ - ぼうし - おじさん	○ あさがおさんのはなしをきく	・つるがのびて、まいてる ・さわってみるとふわふわでたくさん け があつた
○ おおきさ くらべる ・はっぱがてのひらよりもおおきい ・つるのながさをくらべる	○ あさがおさんとはなす	・おせわしてくれるからおおきくなるよっていつてくれた
○ さわる ・ふわふわ ・つるつる		